

小学校英語

評価の悩みを
サポートします!

教科化2年目を迎えた小学校外国語。

2年目の今だからこそ見えてきた課題もあるのではないのでしょうか。

今回、本誌では、小学校外国語の「評価」の悩みについて取り上げます。

実際の授業の中でのよくある悩み、今一度押さえておきたいポイントなどについて

東 仁美 先生(聖学院大学教授)に解説していただきます。

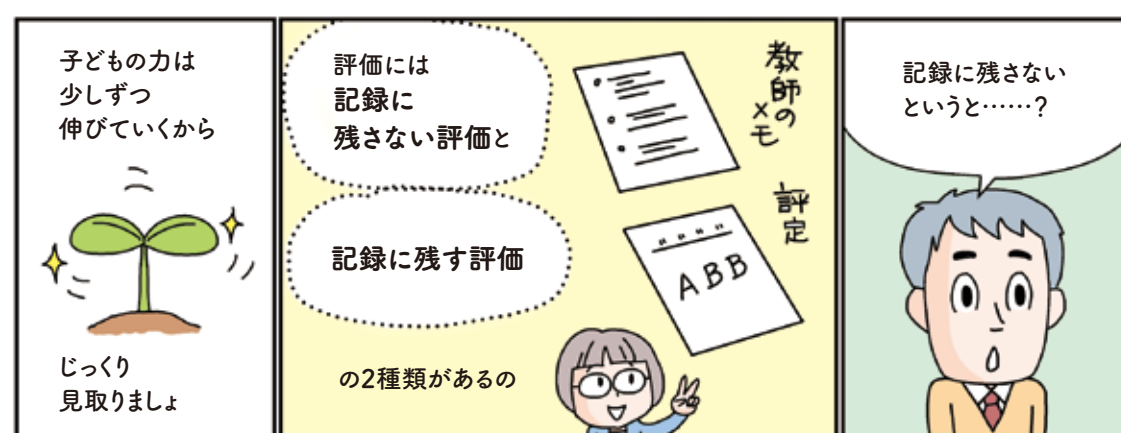
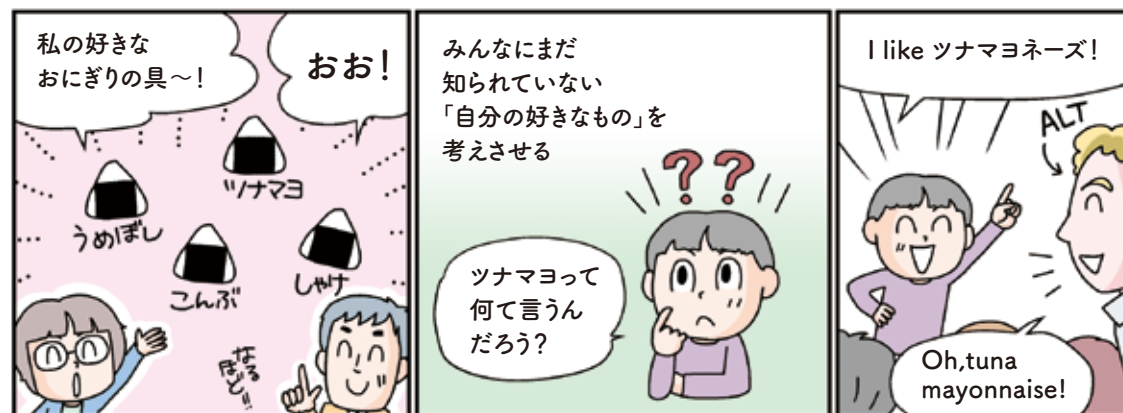
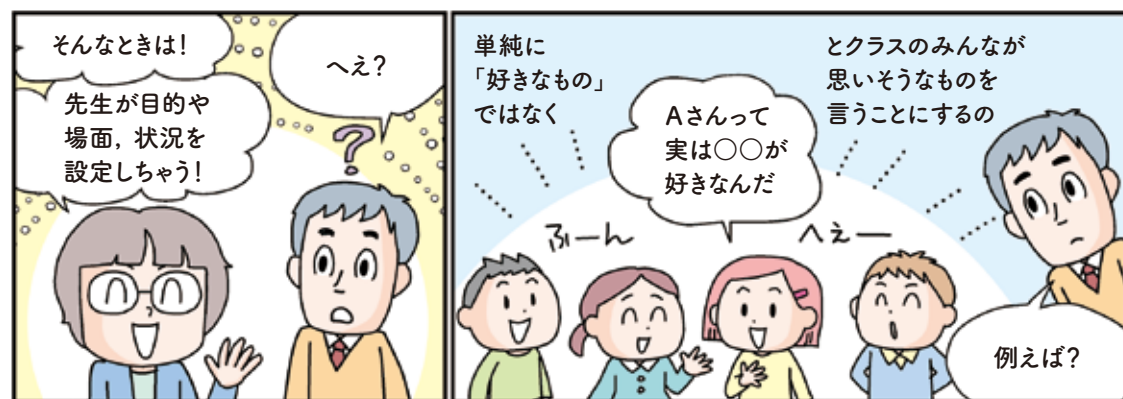
「評価」に関するサポート資料についてもご案内いたします。

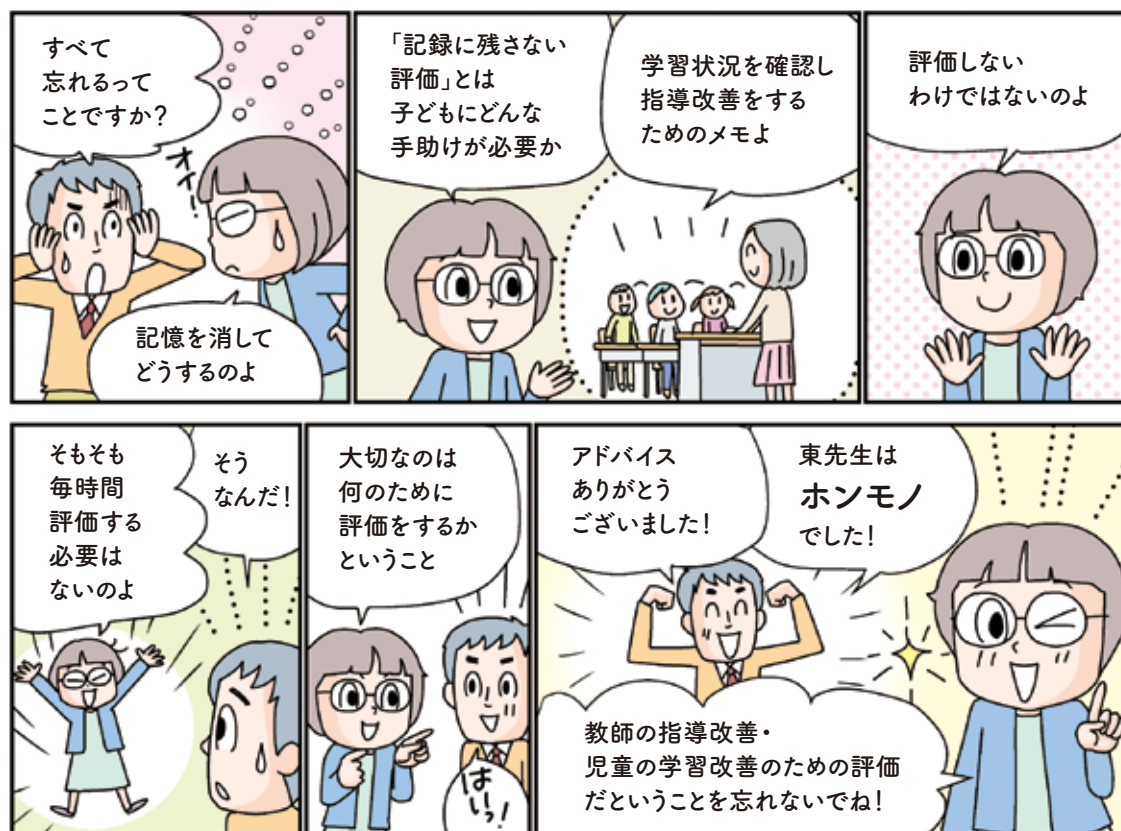
小学校英語

こんなとき、どう評価すればいいの？

監修: 東 仁美
マンガ: あべかよこ







Here We Go! 5・6 学習指導書専用ウェブサイトのご案内

評価のための資料を多数ご用意しております。ぜひご活用ください。

- 評価の全体計画のための資料
- 評価テスト案 (PDF・音声)
- 英語の文字と音に関するテスト
- パフォーマンス評価実施ガイド
- パフォーマンス評価基準表案
- パフォーマンス評価基準表ひな型
- については、英語版も付いています。ALTとの打ち合わせにご活用ください。



Teacher's Manual
p.18記載のパスワードを
入力してご覧ください。

(解答)



評価テスト案 (児童用)

指導と評価の一体化で充実した授業を

新学習指導要領全面実施から1年、高学年外国語科では教科書を活用した授業が展開されてきました。「指導と評価の一体化」という視点で外国語科の授業を考えてみましょう。

1. 三つの柱に基づいた目標や内容を踏まえた授業実践

新学習指導要領では、各教科の目標や内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で整理されました。そして、英語学習の特質を踏まえて、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の五つの領域別に目標が設定されています。高学年外国語科では、この領域別目標の達成を目ざした指導を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成します。

教科化2年目を迎え、学習指導要領の目標や内容を再確認し、三つの柱で示された資質・能力を育成するために、検定教科書ではどのような言語活動が展開されているかに注目しましょう。『Here We Go!』5,6では、実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動が工夫されています。必然性のある目的や場面、状況が設定され、コミュニケーションの楽しさを体験できる言語活動を通して、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を活用しな

がら「学びに向かう力、人間性等」を育成していくスパイラルを生み出したいものです。

2. 学習評価の充実

学校での教育活動で児童の学習状況を評価するためには、『児童にどういった力が身に付いたか』という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする(『小学校学習指導要領解説 総則編』p.93)ことが重要です。新学習指導要領では「指導と評価の一体化」がこれまで以上に重視され、教育課程や学習・指導方法の改善に向けて、一貫性のある取り組みが求められています。

学習評価では、学習過程における理解度を丁寧に確認する「形成的評価」で学習の進み具合を診断して、学期末には評価基準に照らし合わせて学習状況を記録に残す「総括的評価」をします。外国語科では、年間を通して五つの領域で三つの観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」でバランスよく評価します。1年間の指導の中で丁寧に見取りを続け、学年末の指導要録には信頼性・妥当性のある観点別評価と評定を記載できるようにしましょう。

参考文献
『小学校英語「5領域」評価事例集』池田勝久 編／教育開発研究所
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』国立教育政策研究所



東 仁美 (ひがし・ひとみ)

聖学院大学欧米文化学教授。小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)理事・トレーナー検定委員。光村図書 小学校英語教科書『Here We Go!』編集委員。著書に、『小学校英語 はじめる教科書』(共著/mpi松香フォニックス)など。